

【別紙】

● 会議開催回数 (H22. 7. 20~R6. 1. 31 まで)

・協議会 (通常総会・臨時総会 (書面表決を含む。))	40 回
・作業部会 (ヒューマン、ITネットワーク担当部会(書面表決を含む。))	68 回
・システムワーキンググループ	115 回
・行政連絡会議(書面表決を含む。(7市2町の担当課長、部長、副市(町)長、市(町)長等))	118 回
・医師会等説明(46回)、救急担当課長等会議(10回)、臨床検査施設会議(9回)	70 回
・歯科医師会説明(3回)、薬剤師会説明会(2回)	411 回
	(月平均 2.34 回)

● 参加住民同意者数 (R6. 1. 31 現在) *参加負担金 ⇒圏域内(無料)、圏域外(500円:ICカード相当分)

	行田市	加須市	羽生市	久喜市	蓮田市	幸手市	白岡市	宮代町	杉戸町	圏域内合計	圏域外
参加同意者数	946 (381)	15,258 (7,235)	1,930 (1,168)	5,705 (3,400)	499 (245)	4,328 (2,458)	347 (191)	2,052 (1,005)	4,580 (2,213)	35,645 (18,296)	52 (39)
圏域内人口	78,550	112,230	53,917	150,740	61,193	49,293	52,721	33,346	44,115	636,105	—
加入率	1.20%	13.59%	3.57%	3.78%	0.81%	8.78%	0.65%	6.15%	10.38%	5.60%	—

※利根保健医療圏域内人口 R5. 4. 1 現在 *圏域外 埼玉県 21 人 (春日部市 11 人、さいたま市 5 人、越谷市 2 人、熊谷市 1 人、桶川市 1 人、和光市 1 人)

※ () 内は健康記録加入者数

茨城県 16 人 (五霞町 12 人、古河市 3 人、八千代町 1 人)

群馬県 5 人 (館林市 2 人、板倉町 1 人、渋川市 1 人、前橋市 1 人)

東京都 7 人 (青梅市 1 人、世田谷区 1 人、練馬区 2 人、江東区 1 人、北区 1 人、中央区 1 人)

千葉県 3 人 (流山市 1 人、松戸市 1 人、野田市 1 人)

● 参加施設数 (R6. 1. 31 現在) *参加負担金(年額) ⇒中核病院 (50,000 円)、病院 (20,000 円)、診療所 (10,000 円)
圏域外病院 (20,000 円)
歯科医療機関・調剤薬局・臨床検査施設 (各 10,000 円)

施設種別	医療機関数	医療機関名
中核病院・画像診断施設 (GW 有りの施設)	7	済生会栗橋病院、新久喜総合病院、行田総合病院、東埼玉総合病院、土屋小児病院、東埼玉病院、羽生総合病院、
県立病院 (GW 有りの施設)	3	循環器・呼吸器病センター、がんセンター、小児医療センター
病院・診療所 (GW 無しの施設)	73	(略) 病院 (9)、有床診療所(11)、診療所 (53)
小 計	83	
歯科医療機関	8	(略)
調剤薬局	35	(略)
臨床検査施設	6	北埼玉医師会立メディカルセンター、保健科学東日本、ビー・エム・エル、江東微生物研究所、昭和メディカルサイエンス、LSI メディエンス
合 計	132	
圏域外 病院	2	熊谷総合病院、埼玉脳神経科病院、自治医科大学附属さいたま医療センター
歯科・調剤薬局	2	石田歯科クリニック、かみや薬局

参加施設数のうち、利根保健医療圏内の医科医療機関数 (R6. 1. 31 現在) ※県立病院は、その他欄に記載

市・町	行田市	加須市	羽生市	久喜市	蓮田市	幸手市	白岡市	宮代町	杉戸町	その他	合 計
圏域内医療機関数	37	45	30	78	35	30	30	12	17		314
参加医療機関数	2	30	9	16	1	11	0	4	7	(3)	80 (83)
加入率	5.4%	66.7%	30.0%	20.5%	2.9%	36.7%	0.0%	33.3%	41.2%		25.5%

● 救急現場での患者情報参照 (H24. 7. 1～R6. 1. 31 まで)

①「とねっと」参加患者の救急搬送人数 4,809 人

②上記①のうちタブレット端末活用件数 4,480 人

※上記②の内訳

行田 2、加須 2,087、羽生 10、久喜 503、幸手 410、白岡 43、宮代 512、杉戸 913

③タブレット端末活用事例 (※ 消防からのこれまでの送付データのうち、良い事例を掲載)

日 時	平成30年6月29日	金曜日	8:49	種別	急病	搬送先病院	済生会栗橋病院
傷病者情報	年齢	性別	傷病名		程度		
	87	男	失神		軽症		
概 要	<p>・87歳 男性 自宅のダイニングで意識消失していたため、妻が救急要請をした。</p> <p>傷病者は、意識障害の所見があり会話不能であった。 妻から医療情報（かかりつけ医や処方薬など）が得られなかった。</p>						
使用状況	<p>・意識障害、血圧低下から緊急搬送した。 搬送中、とねっとを検索し医療情報を得て医師に報告できた。</p> <p>※収容先の医師が、病歴・処方薬の情報が診断の参考になったと言っていた。</p>						
患者や家族の声・意見	夫の病状を把握していなかったため、「便利ですね」と感心していた。						

● 救急システム活用回数 (R6 年 1 月分のみ)

22 件 (うち医療機関 0 件、救急タブレット 22 件)

※ R4 年度 1,308 件 (うち医療機関 59 件、救急タブレット 1,249 件)

● 糖尿病連携パス (R6 年 1 月分のみ)

連携パス機能の使用状況 (東埼玉総合病院)

①循環型連携パスの適用患者数 383 人

※上記①の所在市町別内訳

加須 6、羽生 1、久喜 28、蓮田 1、幸手 75、白岡 5、宮代 97、杉戸 169、春日部市 1

②連携パス使用回数 0 回

③連携パスを用いた連携施設数 36 施設

※上記③の所在市町別内訳

加須 3、久喜 10、蓮田 2、幸手 11、宮代 3、杉戸 7

● 医療機関でのシステム参照件数 (R6.1月分のみ：双方向性)

①病院・診療所・調剤薬局 → 中核病院 1件 (R4年度 204件)
※ 中核病院で「とねっと」に登録された病名・アレルギー・検査結果・画像・処方・注射の情報を病院・診療所・調剤薬局が参照

②中核病院 → 病院・診療所・調剤薬局 0件 (R4年度 48件)
※ 病院・診療所が検査施設を通じて「とねっと」に登録した検査結果、調剤薬局が登録した調剤情報を中核病院が参照

③中核病院 → 中核病院 1件 (R4年度 131件)
※ 中核病院で「とねっと」に登録された病名・アレルギー・検査結果・画像・処方・注射の情報を中核病院が参照

④病院・診療所・調剤薬局 → 病院・診療所・調剤薬局 0件 (R4年度 163件)
※ 病院・診療所が検査施設を通じて「とねっと」に登録した検査結果、調剤薬局が登録した調剤情報を病院・診療所・調剤薬局が参照

● 住民による健康記録使用回数 (R6年1月分のみ) 670件 (R4年度 9,811件)
「とねっと」健康記録アプリなどにより、歩数、体重、血圧等の入力・時系列参照や検査値、処方・調剤薬局の入力(中核病院や調剤薬局は自動登録)・時系列参照等による自身の健康管理に活用